

堀谷戸Ⅱ遺跡

－特別養護老人ホーム増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2011

安中市埋蔵文化財発掘調査団

序

安中市の南東に位置する野殿地区は、緑豊かな丘陵地帯で、上毛三山が見渡せる景色豊かな場所に位置しています。

このたび、社会福祉法人あんなか会が計画した特別養護老人ホームのどの荘の増築工事を行うにあたって、堀谷戸Ⅱ遺跡の発掘調査を実施することになりました。平成8年度には、のどの荘建設に先立って発掘調査を実施し、古墳時代から平安時代にかけての集落が確認されております。今回の調査地点では、前回の調査地点から谷を挟んだ場所にも奈良・平安時代の集落が存在することが明らかとなりました。本報告書はその成果をまとめたものです。本報告が、学術分野に寄与するだけではなく、地域を学ぶ郷土資料として活用されることを願ってやみません。

最後に、発掘調査にご協力いただいた社会福祉法人あんなか福社会をはじめとする関係者の皆様、発掘調査に従事していただいた方々には感謝申し上げる次第です。

平成23年12月

安中市埋蔵文化財発掘調査団
団長 中澤 四郎

例　　言

- 1 本書は社会福祉法人あんなか福社会が計画した特別養護老人ホーム増築工事に伴う堀谷戸Ⅱ遺跡（略称H-3）の発掘調査報告書である。平成8年度に調査を実施した地点の隣接地である。
- 2 堀谷戸Ⅱ遺跡は安中市野殿字堀谷戸1599番地1他に所在する。
- 3 確認調査については国庫補助金・県費補助金により、平成23年度に安中市教育委員会（学習の森文化財係）が実施し、本調査及び資料整理は原因者負担により、安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団（団長 中澤四郎）が委託を受けて実施した。
事務局 佐俣信之（副団長）、佐藤房之（事務局長）
藤巻正勝（事務局次長）、蜂須賀まゆみ（経理担当）
調査担当 井上慎也（確認調査・発掘調査・資料整理担当）
発掘調査従事者 今井保美、岩井英雄、竹井五郎、遠間宰吉、野口義則、村椿 健
- 4 確認調査は、平成23年8月24日・25日、発掘調査は同年9月5日から9日にそれぞれ実施した。資料整理は、発掘調査終了後、平成23年12月16日までの間、断続的に実施した。
- 5 本書の編集・執筆は、井上が行った。資料整理は、井上、高澤はつ江が行い、田川真知、大月圭子、町田千明、大手啓子の協力を得た。また、古代土器については、三浦京子氏にご教示を得た。
- 6 遺構及び遺物の写真撮影、遺物実測は井上が行った。
- 7 発掘調査の記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

凡　例

1 遺構の実測図は1/80を基本とした。遺物分布図は1/160とした。

2 遺構図中の北マークは磁北である。座標値は旧日本測地系である。

本文中で使用した地図は、国土地理院発行の地形図「富岡」(1/50,000)、安中市都市計画地図(1/2,500)、工事用現況図(1/500)である。

3 遺物実測図の縮尺は次のとおりである。遺物写真的縮尺は任意である。

土器：1/4 (●は須恵器を示す)

4 土層説明中の記号、略称は次のとおりである。

土層名称及び量の基準：「新版標準土色帖」による。

色調く：より明るい方向を示す(暗く明)

しまり、粘性 ○：あり ○：ややあり △：あまりない ×：なし

混入物の量 ○：大量(30~50%) ○：多量(15~25%) △：少量(5~10%)

※：若干(1~3%)

混入物 R P：ローム粒子(溶け込んだ状態) R B：ロームブロック(固まりの状態)

Y P：板鼻黄色軽石

5 本文・図面で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いた。

浅間A軽石=A s-A 浅間B軽石=A s-B 浅間板鼻黄色軽石層=A s-Y P

6 遺構略称は次のとおりである。

遺構 H：住居(古代)、D：土坑、I：井戸

遺物 H：土師器、S E：須恵器、S：石器・礫、P：土器

目　次

序・例言

凡例・目次

I 調査に至る経過…………… 1

II 調査の方法と経過…………… 1

III 遺跡の地理的・歴史的環境…………… 3

IV 古代の遺構と遺物…………… 5

V 成果と問題点…………… 11

写真図版

抄録

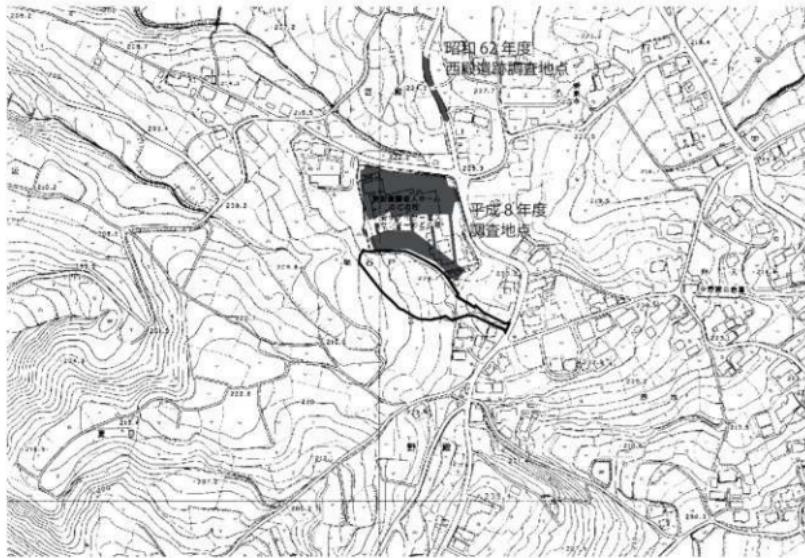
I 調査に至る経過

平成23年2月14日、安中市地域開発対策委員会より、社会福祉法人あんなか福祉会が計画する特別養護老人ホーム増築工事予定地の埋蔵文化財の状況についての問い合わせがあった。該当地は、周知の包蔵地内（市Na521）であり、平成8年度に発掘調査を実施した場所の隣接地であることから、遺跡が存在する可能性があるため、遺跡の確認調査を実施する必要があり、開発については、当教育委員会と協議が必要であることを協議書を通じて回答した。同年2月23日、あんなか福祉会より、確認調査を実施することの回答があった。その後、確認調査に向けての事前協議を行い、同年8月10日、あんなか福祉会より、確認調査依頼書、必要書類（法93条届出、必要書類）が提出された。同年8月24・25日に確認調査を実施する。調査の結果、古代の遺構が発見されたため、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行う。開発者側と協議をした結果、発見された遺構の場所は、工事では盛土部分となる予定であったが、今後の工事計画により、遺構への影響が避けられない可能性もあり、現状保存は難しいことから、発見された遺構については、今回の工事に先立ち、発掘調査による記録保存の措置を講ずることになった。法93条届出については、同年8月26日付で「発掘調査」の指示を出す。その後発掘調査に向けての協議・調整を行い、同年9月2日付で、あんなか福祉会と市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団（団長安中市教育長）の間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を9月5日から開始した。

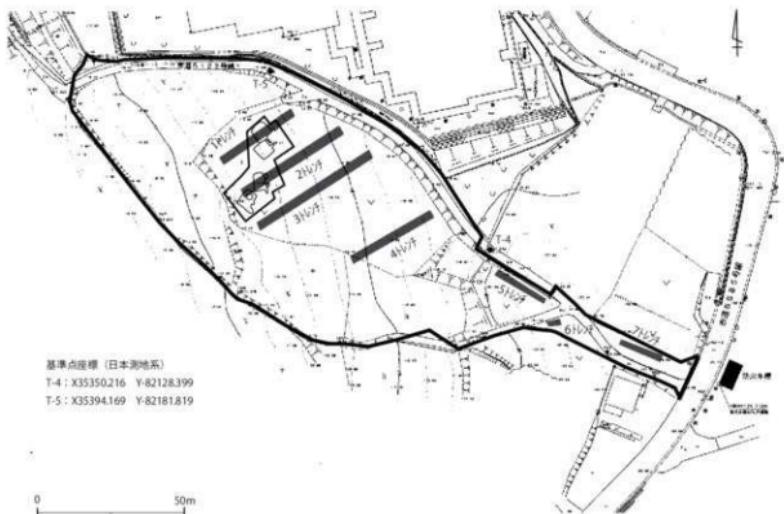
II 調査の方法と経過

発掘調査の方法は、工事設計図をもとに調査範囲を決定した。基準点及び水準点は、工事用測量杭等を使用した（第2図）。バックホーにより表土を掘削し、ジョレンを使用して人力で遺構確認を行い、遺構の精査を行った。住居址の調査は、分層16分割法で行った。精査した遺構については、写真撮影（記録用デジタルカメラ、35mmリバーサルフィルム）、測量を行なった。出土した遺物は、遺構単位で層位及び区毎に取り上げ記録した。遺構測量は、平板測量により1/40で作成し、遺構の高さを記録した。土層断面図及び微細図は、ビニール転写法による測量により原寸大で作成した。

確認調査は、平成23年8月24日・25日に実施した。進入道路部分及び造成部分を対象に幅1m及び2mのトレンチを7本設定し、バックホー（0.6m³）により遺構確認面まで掘削し、人力で遺構有無の確認を行った。また、併せて前回調査で発見された遺構（中世溝等）の確認を行った。確認調査では、敷地斜面の高い場所で遺構確認が不可能な深さまで削平（ローム層まで）されており、耕作土の堆積が薄く、敷地斜面の低い部分では、遺構面までの土層堆積は安定していることていることが判明した。また、浅間B軽石層下では、地山との間に砂質層（黒色土二次堆積層）を確認した。遺構は、斜面部に相当する1トレンチ及び2トレンチにおいて住居址を確認し、敷地範囲の低い部分で集落が存在することが明らかとなつた。3トレンチでは、時期不明の浅い溝状遺構を確認したのみで、これ以外に遺構、遺物の広がりは確認できなかつた。トレンチ調査の結果から、計画地に對しては、削平場所では遺構は存在せず、遺構は、低地部分の狭い範囲に点在しているものと推定した。工事計画では、遺構が存在する可能性のある範囲においては、盛土を行うため、工事による遺構への影響は少ないと判断されたが、今後、計画地の開発の可能性もあり、遺構への影響も懸念されることから、今回の確認調査で発見された遺構部分を対象に本調査



第1図 調査位置図 (1/5000)



第2図 トレンチ・調査区設定図 (1/1200)

を実施することとなった。

本調査は、同年9月5日から9日まで実施し、住居址4軒（奈良3軒、平安1軒）を調査した。住居址の発掘調査は、8日までに完握し、9日に遺構測量及び補足調査、機材の撤収を行い、終了した。

資料整理及び報告書作成は、発掘調査終了後、平成23年12月16日までの間、断続的に実施した。資料整理は、9月・10月に実施し、遺物の洗浄・注記・接合・分類及び遺物台帳作成等の遺物整理、図面の修正・整理、各種台帳の整理、写真整理を中心に行った。報告書作成及び編集は、10月・11月に実施し、パソコン等のデジタル機器を使用して、図面トレース、データ集計、遺物実測・トレース、デジタルカメラによる遺物写真撮影、写真図版作成等を行った。

III 遺跡の地理的・歴史的環境

1 地理的環境

安中市は関東平野の周縁部である群馬県西部（西毛地域）に位置する。市の西部から北部にかけては山地が広がる。碓氷峠付近を水源とする碓氷川が西から東へ流れ、市域を南北に分断する。また、碓氷川の北側には並行して九十九川が流れ、安中市東部で碓氷川に合流する。これらの河川流域には、河岸段丘が発達し、下位段丘（礫部、人見地区）、中位段丘（安中・原市地区）、上位段丘（横野地区）に区分される。

堀谷戸II遺跡は野殿地区に所在する。野殿地区は、碓氷川の右岸、岩野谷丘陵にあり、本遺跡周辺では、幾筋にも延びる舌状台地と浸食された谷地で形成され、それぞれの谷頭には、湧水が認められる。こうした地形は、「堀谷戸」の字名に由来すると推定される。遺跡の標高は、220～221mである。

2 歴史的環境

堀谷戸II遺跡は、縄文・古墳・奈良・平安時代、中世の埋蔵文化財包蔵地（市No521）・集落跡として登録されている。野殿地区における発掘調査は、隣接する西殿遺跡（野殿北屋敷を含む）と堀谷戸遺跡で行われている。

西殿遺跡と堀谷戸遺跡は、狭い尾根状台地上に点在する小規模集落で形成される同一遺跡群（野殿地区遺跡群）と推測される。縄文時代では、前期～後期の遺物の分布がみられるが、遺構は確認されていない。弥生時代は遺物・遺構は確認されていない。集落は、古墳時代から平安時代にかけてあり、6世紀後半から7世紀初頭、9世紀後半の2時期にピークをもち、その間は、断続を挟みながら小規模となる傾向である。また、遺跡群の北東及び周辺には、本地域の有力者の古墳と推定される後期の野殿天王塚古墳（旧岩野谷56号墳）を含む古墳（円墳）が点在する。野殿地区で確認される古代集落は、碓氷郡の「石井郷」の一部に含まれると推測される。

3 層序

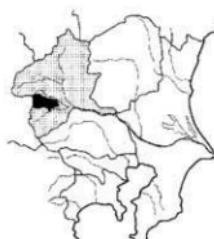
土層堆積状況は、概ね前回調査地点と共通する。高い部分では、I a層（黒褐色）の直下が、V層（黄褐色粘質土層：ローム層）で、その間に削平により確認できない。低い場所では、II a層（黒色）の上部に、基本層序に無い斜面部を覆う土砂崩れによる黒褐色砂質土層の2次堆積が認められた。



- 1 堀谷戸遺跡（古墳～古代集落）
堀谷戸II遺跡（本報告）
2 西殿遺跡（古墳～古代集落）
3 野殿北屋敷（中・近世）
4 野殿天王塚古墳（後期）
5 猿谷館跡（中世館址）
6 西ノ平遺跡（古墳・古代集落）
7 岩井遺跡（古代集落）
8 中宿在田遺跡（古代水田・中世館址）
9 中宿在田II遺跡（古代水田・中世館址）
10 板鼻城・板鼻城遺跡（繩文集落、中世）

- 11 鷹の巣出丸（中世）
12 板鼻古墳（中世）
13 小丸山曲輪（中・近世）
14 古城遺跡（旧石器・繩文・古代集落）
15 海竜寺遺跡（繩文・古墳集落）
16 稲荷木遺跡（古墳集落）
17 屏風岩遺跡（終末期古墳）

● 主な古墳群（市内）



第3図 周辺遺跡分布図（国土地理院「富岡」1/50000）



第4図 基本層序

IV 古代の遺構と遺物

発掘調査では、西斜面部で4軒の住居址（奈良時代3軒、平安時代1軒）を確認した。前回の調査で確認された中世溝（シシ堀）、その他遺構は、トレンチ調査を実施したが大規模な地山の削平の影響により存在を確認できなかった。

1 遺構

（1）住居址（第6～9図）

奈良時代

H-1号住居址は、H-2号住居址と部分的に接しているが、出土遺物から、ほぼ同時期と推定される。2軒の新旧関係は、H-2号住居址が、H-1号住居址を掘削により埋め戻して構築されているため、新しいと判断される。2軒とも地形に沿って構築されているため、本来の竈の位置とは主軸のずれが認められる。H-1号住居址は、竈の煙道が細長く、燃焼部との結合部分に土師器裏の上半部が埋設された状態を確認した。竈本体は、破壊されており、遺存状態は極めて悪い。床面中央には、浅い皿状の土坑が存在する。竈右脇には、貯蔵穴（D-1）がある。貯蔵穴周辺では完形を含む壺が3個体出土した。遺物は、斜面上部からの流れ込みによるものが多く、埋め戻し途中で廃棄された状況が認められた。床面には、編物石が8点出土した。住居址北東は、住居址より新しい風倒木痕が認められた。

H-2号住居址は、H-1号住居址と北東隅部分で重複する。覆土上層で流れ込みによる遺物が多数出土した。住居址北壁際の三角堆積土層からは、須恵器蓋が出土した。覆土は、埋め戻しの後、砂質粘土の流れ込みにより埋没している。調査では、床面及び土坑が湧水で冠水することを確認した。竈は、斜面の高い位置に存在する。床面には、8点の編物石が散在して出土した。

H-3号住居址は、平面長方形で長辺（東側）に張出部が存在する。張出部は、削り出しによって段が築かれている。この部分にD-1号土坑が接し、竈が2基確認された。竈1は、長辺の中央に存在する。竈2では、異なる方向に延びる煙道が2ヵ所確認され、一般的な竈の構造とは異なる点が特筆される。覆土は、砂質土の流れ込みである。遺物は、土器破片が覆土中から少量出土した。

3軒の住居址は、出土遺物の時期から8世紀前半と考えられる。

平安時代

H-4号住居址は、平面長方形で、南角には、張り出しが存在するのが特徴である。竈は長辺（南東）中央に存在する。床面には、住居より新しいI-1号遺構（井戸状遺構）が重複する。遺物は、竈と片側（北）に偏って少量出土した。

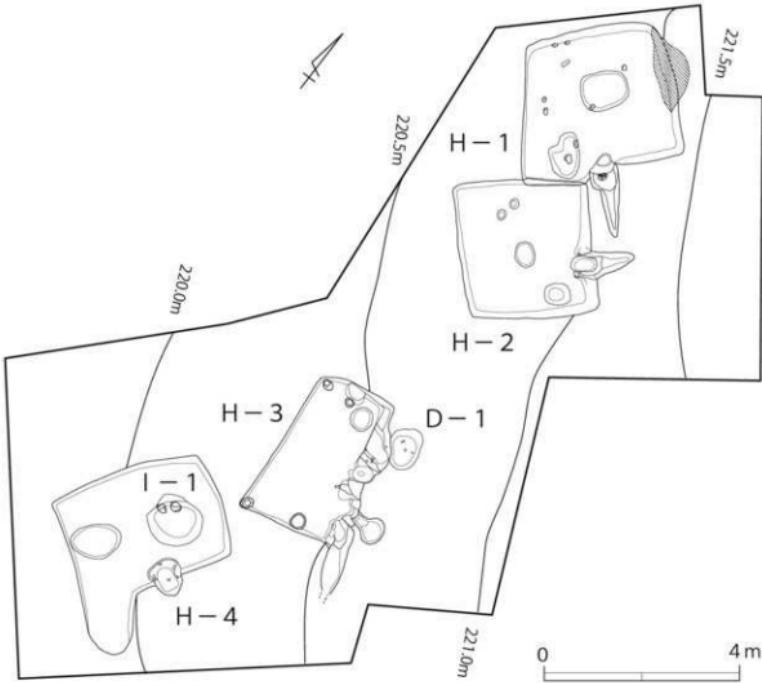
住居址は、出土遺物の時期から9世紀前半と考えられる。

（2）土坑

D-1号土坑は、H-3号住居址と接して確認された。覆土中から、土師器小破片が少量出土した。

（3）井戸状遺構

I-1号遺構は、H-4号住居址床面で確認された。平面円形・断面箱形で、湧水により常に冠水するため、井戸と推定した。深さは不明である。覆土中から9世紀後半の須恵器が出土した。



第5図 堀谷戸II遺跡 全体図

| 住居名 | 平面形態 | 規模 | | | 壁構 | 主軸方向 | 土坑 | | 柱穴 | 床床 | 覆土 | 遺・付址 | | 時期 | 所見 |
|-----|-------|-----|-----|-----|----|----------|----|----|----|----|----|------------|----|----|---|
| | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | 形状 | 床下 | | | | 位置 | 構造 | | |
| H-1 | 中形正方形 | 4.2 | 3.9 | 0.5 | × | N-144°-E | 竪右 | 中央 | × | × | A | 南東中央 | A | I | 床中央に浅い土坑、縦長い電燈道に櫛上半部埋設。貯藏穴付近に3点のみが出土。 |
| H-2 | 小形正方形 | 3.8 | 3.6 | 0.6 | × | N-53°-E | 竪右 | 中央 | × | × | B | 北東中央 | B | I | 床面から沸水。覆土上層から遺物出土。 |
| H-3 | 中形長方形 | 4.4 | 2.8 | 0.3 | × | N-88°-E | 竪左 | × | × | × | B | 東南寄り | E | I | 張山窓があり、竪2基設置。竪2は骨道が2ヵ所。D-1が重複する。粘土の高まり。 |
| H-4 | 中形長方形 | 4.4 | 3.2 | 0.3 | × | N-130°-E | × | △ | × | × | A1 | 北ノ中央 南寄 | A | II | 床面に柱廻より新しい土坑(I-1)。浅い張出しがある。 |

凡例 規模の()は推定値。()は残存値。

A:自然堆積(土砂)+埋め戻し(ローム混入)

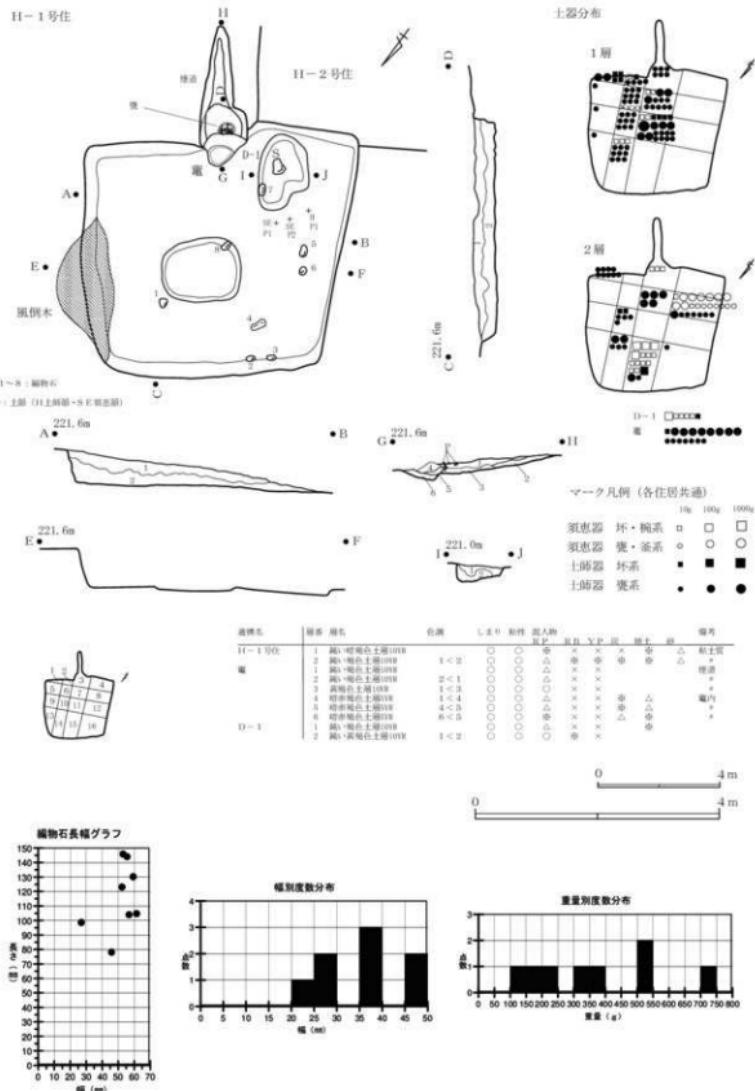
B:自然堆積(土砂混入)

I期: 8世紀前半

II期: 9世紀前半

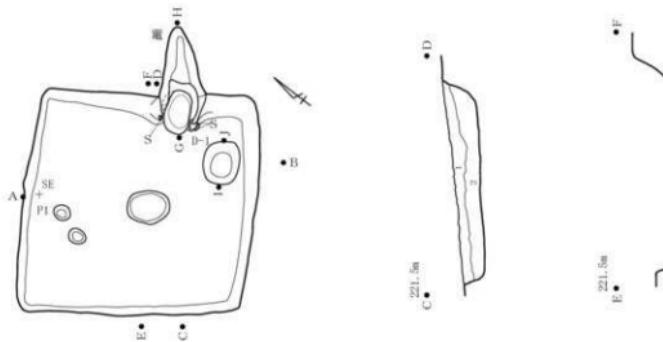
平面状態 大形: 6m以上 中形: 4~6m 小形: 4m以下
 電構造 A: ローム+黒色土 B: ローム+黒色土+袖芯河川織
 C: ローム+黒色土+河川織 D: 地山削り出し+ローム+袖芯河川織
 E: 地山削り出し+ローム+袖粘土

第1表 住居址観察表

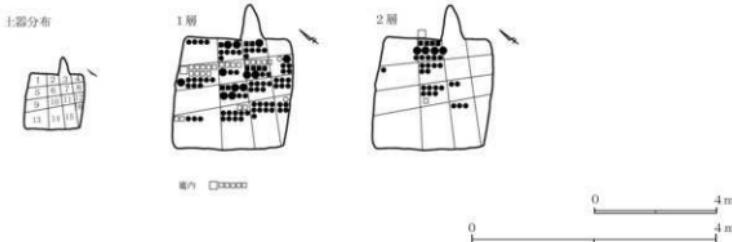


第6図 H-1号住居址実測図

H-2号住

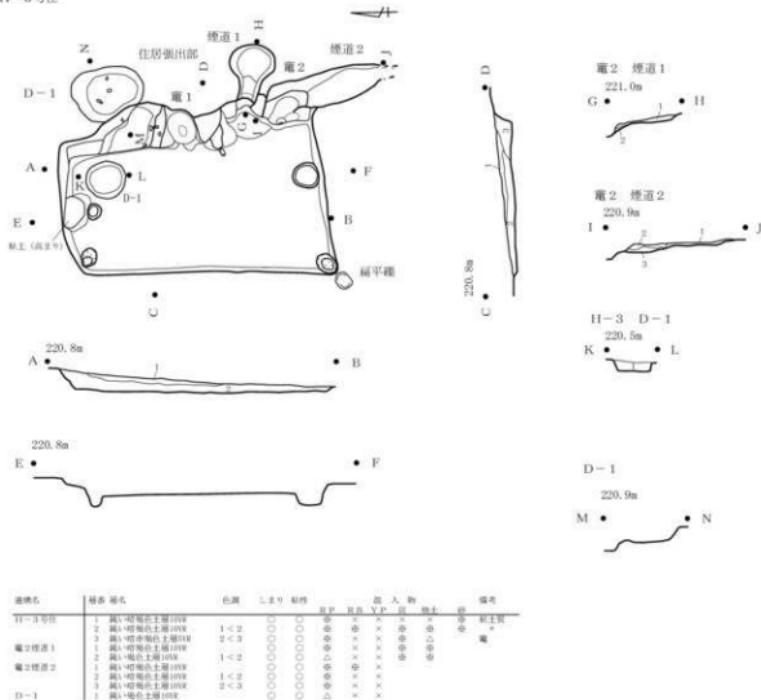


| 遺跡名 | 編番 | 場所名 | 色調 | L | 実行 | 細性 | 測入物 | R | B | V | P | 出 | 積木 | 砂 | 備考 |
|-------|----|--------------|----|----|----|----|-----|---|---|---|---|---|----|---|-----|
| H-2号住 | 1 | 施設-切妻造土壁10m | 1 | < | ○ | ○ | △ | × | × | × | ○ | ● | △ | ● | 柱子貫 |
| | 2 | 施設-切妻造土壁10m | 2 | <2 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |
| | 3 | 施設-切妻造土壁10m | 3 | <3 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |
| | 4 | 施設-切妻造土壁7.0m | 4 | <2 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |
| | 5 | 施設-切妻造土壁7.0m | 5 | <2 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |
| | 6 | 施設-切妻造土壁7.0m | 6 | <1 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |
| | 7 | 施設-切妻造土壁7.0m | 7 | <1 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |
| | 8 | 施設-切妻造土壁7.0m | 8 | <4 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |
| | 9 | 施設-切妻造土壁7.0m | 9 | <6 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |
| | 10 | 施設-切妻造土壁7.0m | 10 | <7 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |
| D-1 | 1 | 施設-切妻造土壁7.0m | 11 | <9 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | 柱子貫 |



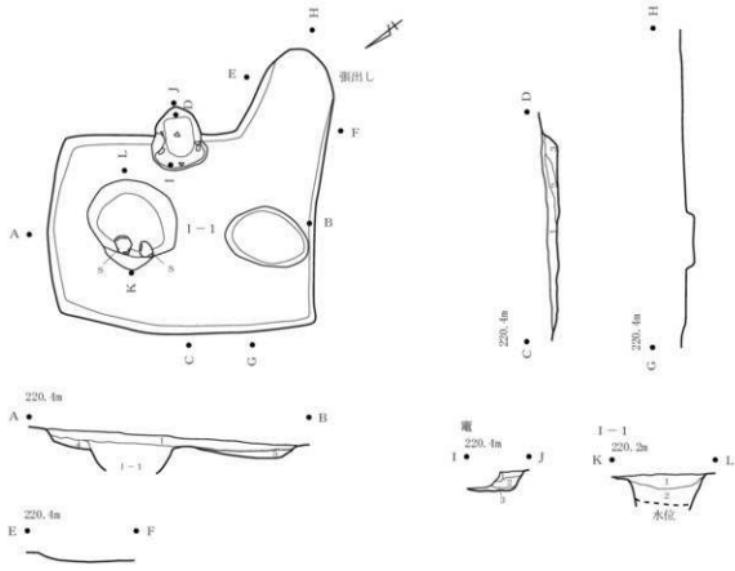
第7図 H-2号住居址実測図

H-3号住

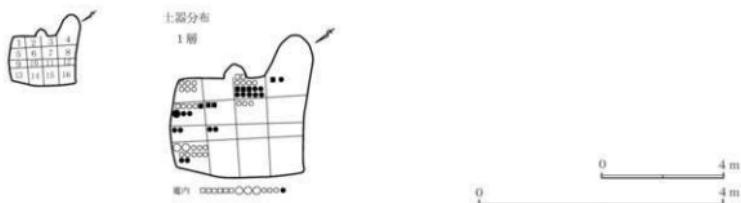


第8図 H-3号住居址実測図

II-4号住



| 断面名 | 母岩種名 | 色調 | しまり | 粒度 | R | P | R.D. | V.P. | 湿入性 | 透水性 | 備考 |
|----------|-------------|-------|-----|----|---|---|------|------|-----|-----|----|
| II-4 ① | 1 鹿児島層玄土質土層 | 1 < 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | △ | △ |
| | 2 鹿児島層粘土質土層 | 2 < 3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | △ | △ |
| | 3 鹿児島層粘土質土層 | 2 < 3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | △ | △ |
| | 4 粘土質土層 | 4 < 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | △ | △ |
| | 5 粘土質土層 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | △ | △ |
| 掘出し 壁 | 1 鹿児島層粘土質土層 | 1 < 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | △ | △ |
| | 2 鹿児島層粘土質土層 | 2 < 3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | △ | △ |
| II-3 ①-1 | 1 鹿児島層粘土質土層 | 1 < 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | △ | △ |
| | 2 鹿児島層粘土質土層 | 1 < 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | △ | △ |



第9図 H-4号住居址実測図

2 遺物

奈良時代（第10・11図）

H-1～3号住居址からは、8世紀前半の土器群が出土した。主な器種は、土師器壺・甕・台付甕・瓶、須恵器壺（高台付含む）・蓋・甕である。土師器壺（1・2・20・21）は、底部が湾曲して、口縁部が直立するものである。2は口縁部がやや内側に屈曲するため、やや時期が古い。縁部内外は撫で、体部外面は箒削りによる調整である。土師器甕（8～11・19）は、頸部が「く」の字に屈曲し、胴部の膨らみが増すものである。外面調整は斜位あるいは横位の箒削りである。台付甕（18）は、脚部がやや扁平になるものである。外面調整は縦位の箒削りである。土師器瓶（12）の外面調整は縦位の箒削りを基本とする。須恵器壺（3～6・14・15）は、内外面とも輪轂整形によるもので、底部及びその周辺は、撫起こしによる手持ちあるいは全面回転箒削りを施し、後に高台部分を削り作出する。須恵器蓋（7・16・17）は、水平な天井部から緩やかに湾曲して口縁部に至り、つまみ出した「かえり」が付く。摘みは、無いものの（7）と環状（16・17）がある。須恵器甕（13・22）は、胴部が球状となる形態と推定される。内外面とも当てによる叩きが施されている。編物石8点は、全て棒状の安山岩で大きさの平均は、長さ115.7mm、幅51.77mm、厚さ36.48mm、重量381.13gである。

平安時代（第11図）

H-4号住居址からは、9世紀前半の土器群が出土した。須恵器壺（23・26）は、輪轂整形によるもので、底面が右回転糸切り後、箒撫でを施す。須恵器甕（24・25）は輪轂整形後に撫でにより調整している。内外の叩きはみられない。

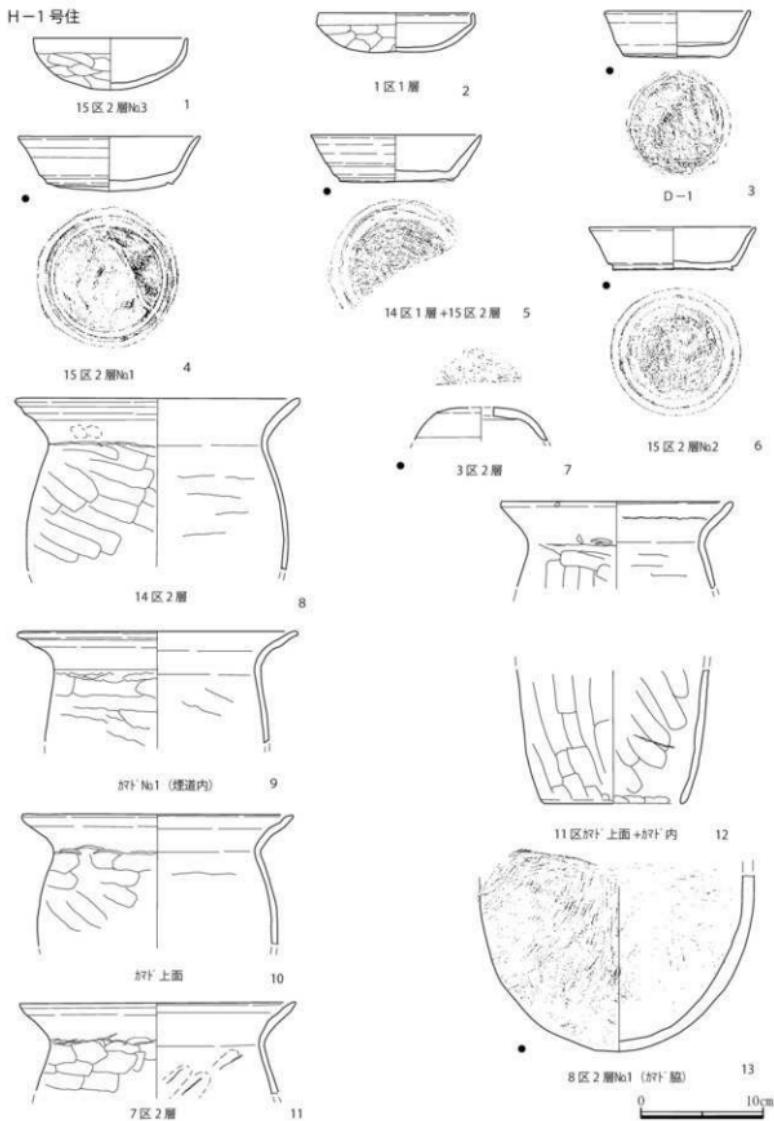
I-1号戸戸からは、9世紀後半の土器群が出土した。須恵器壺（26）は、体部中部に膨らみをもち、口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り未調整である。土師器甕（27）とした器種は、形状が「鍋」の可能性がある。口唇部には、沈線による有段が認められる。外面調整は縦位の箒削りである。

V 成果と問題点

今回の発掘調査では、調査範囲が狭小であったが、堀谷戸遺跡の性格及びその周辺における遺跡群の在り方を考える上で貴重なものとなった。

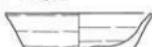
平成8年度の調査では、古墳時代後期と平安時代の2時期にピークをもつ集落が確認されたが、今回の調査地点では、その間に営まれた8世紀前半の小規模集落が存在することが明らかとなった。この時期は、律令制が整備される飛鳥時代から奈良時代へと時代が変わる歴史的転換期に相当し、古代碓氷郡の「石井郷」における集落の始まりとしてとらえることができる。

堀谷戸遺跡では、6世紀後半に集落の形成が始まり、6世紀終末～7世紀初頭に集落の拡大し、8世紀代に至るまで集落の断絶と小規模集落の形成が繰り返される。9世紀になると再び集落規模が拡大し、9世紀後半にピークが認められる。西殿遺跡では、7世紀後半から8世紀前半と9世紀前半に集落のピークが認められる。両遺跡を比較して言えることは、時期毎に集落が、狭い尾根状台地上で居住占地を移動して、小規模集落を形成していることである。こうした傾向の背景には、古墳時代後期に至って野殿地区における開発が、周辺地域（鷺宮地区遺跡群等）と連動して開始されたことと古代碓氷郡の「石井郷」の一部を構成する地域であることを反映していると考えられる。野殿地区に隣接する岩井地区では、碓氷川の下位段丘面の台地上に同一集落の一部である岩井遺跡（岩井西の平遺跡、奈良・平安集落）と西ノ平遺跡



第10図 出土遺物実測図(1)

H-2号住



2区2層 14



井戸内+2区2層



3区2層(井戸脇) 18



5区2層No1 16



6区1層+7区1層+14区1層 17



6区1層

H-3号住



張出部(井戸付近) 20



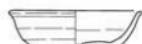
11区1層 21



15区1層 22



H-4号住



井戸内 23



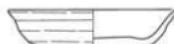
13区1層 24



井戸内

25

I-1号遺構(井戸)



26



覆土

27

0 10cm

第11図 出土遺物実測図(2)

H-1 号住居址

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 法量 (cm) | ①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存 | 成・整形技法の特徴 | 時期 |
|----|----------------|----------|-------------------------------|------------------------------------|--|-----------------|
| 1 | 15区2層No3 | 土師器 环 | 口径 12.6 器高 4.2 4/4.5 | ①普通 ②褐色 ③黑色粒・雜 ④4/5 | 外面 口縁部横擦で、底部～底部鋸削り（穂）。 内面 口縁部～底部横擦で。 | 8世紀前半 |
| 2 | 1区1層 | 土師器 环 | 口径 12.8 器高 3.1 4/4.3 | ①普通 ②褐色 ③黑色粒・小穂 ④4/3 | 外面 口縁部横擦で、底部～底部鋸削り。 内面 口縁部～底部横擦で。 | 8世紀前半 (古) |
| 3 | D-1 | 須恵器 环 | 口径 12.1 底径 8.4 器高 3.8 | ①還元 ②外面灰褐色・内面黄褐色 ③黑色粒 ④4/5 | 外面 橫擦整形。底部及び周辺擦起こし・全面鋸削り。 内面 橫擦整形。 | 8世紀前半 |
| 4 | 15区2層No1 | 須恵器 环 | 口径 14.9 底径 10.3 器高 4.1 | ①還元 ②灰白色・外面部灰暗色 ③黑色粒・白色粒 ④4/5 | 外面 橫擦整形。底部及び周辺擦起こし・全面回転 削り・底部溝状の削りによる高台作付。 内面 橫擦整形。 | 8世紀前半 |
| 5 | 14区1層 15区2層 | 須恵器 环 | 口径 14.0 底径 9.7 器高 3.9 | ①還元 ②表面灰白色・内面灰黄色 ③黑色粒 ④4/2 | 外面 橫擦整形。底部及び周辺擦起こし・全面回転 削り・高台作付後鋸削り。 内面 橫擦整形。 | 8世紀前半 |
| 6 | 15区2層No2 | 須恵器 环 | 口径 13.7 底径 9.8 器高 3.5 | ①還元 ②灰白色 ③黑色粒 ④ほど完形 | 外面 橫擦整形。底部及び周辺擦起こし・全面回転 削りによる高台作付。 内面 橫擦整形。 | 8世紀前半 |
| 7 | 3区2層 | 須恵器 蓋 | 口径 (11.5) 底径 一 器高 (2.5) | ①還元 ②灰褐色 ③白色粒・黑色粒 ④1/6 | 外面 橫擦整形。天井部回転削り。 内面 橫擦整形。 | 8世紀前半 |
| 8 | 14区2層 | 土師器 腹 | 口径 (23.4) | ①普通 ②褐色 ③白色粒・黑色粒・ 小穂 ④口縁部～脚部1/3 | 外面 口縁部横擦で・移動工具による沈線・脚部鋸 削り（斜行）、頭部鋸削り（穂） 内面 口縁部横擦で、脚部混擦で。 | 8世紀前半 |
| 9 | 竈No1 | 土師器 腹 | 口径 23.0 器高 (9.0) | ①普通 ②褐色 ③黑色粒・小穂 ④口縁部1/2 | 外面 口縁部横擦。脚部鋸削り（斜行）、頭部鋸 削り（穂） 内面 口縁部横擦で、脚部混擦で。 | 8世紀前半 煙通部に使用 |
| 10 | 11区竈上面 | 土師器 腹 | 口径 (12.2) | ①普通 ②褐色 ③黑色粒・小穂 ④口縁部1/4 | 外面 口縁部横擦で、脚部鋸削り（斜行）、頭部鋸 削り（穂）・适当て組 内面 口縁部横擦で、脚部混擦で。 | 8世紀前半 |
| 11 | 7区2層 | 土師器 腹 | 口径 (22.6) | ①普通 ②褐色 ③黑色粒 ④口縁部 1/3 | 外面 口縁部横擦で、脚部鋸削り（穂）、頭部鋸 削り（穂）・适当て組 内面 口縁部横擦で、脚部混擦で。 | 8世紀前半 |
| 12 | 11区竈上面 内 | 土師器 腹 | 口径 (19.1) 底径 (11.7) | ①普通 ②黄・褐色 ③黑色粒・小穂 ④口縁部・脚部1/6 | 外面 口縁部横擦で、脚部鋸削り（穂）、頭部鋸削 り（穂）・适当て組、底部指擦で（穂）、 内面 口縁部横擦で、脚部混擦で。 | 8世紀前半 |
| 13 | 8区2層No1 | 須恵器 裏 | 口径 一 底径 一 器高 一 | ①還元 ②灰オリーブ色 ③黑色粒・ 小穂 ④脚下部1/2 | 外面 橫擦平行帯足底・底面鋸削り。 内面 同心円状アラ貝足底 | 8世紀前半 |
| 14 | 2区2層 | 須恵器 环 | 口径 12.1 底径 9.0 器高 3.4 | ①還元 ②外面灰褐色・内面灰白色 ③黑色粒 ④1/4 | 外面 橫擦整形。底部及び周辺擦起こし・全面回転 削り。 内面 橫擦整形。 | 8世紀前半 |

H-2 号住居址

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 法量 (cm) | ①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存 | 成・整形技法の特徴 | 時期 |
|----|-----------------------|------------|---------------------------------------|---|---|-------|
| 15 | 竈内2区2層 | 須恵器 环 | 口径 15.2 底径 11.3 器高 3.8 4/2.3 | ①還元 ②外面灰褐色・内面灰白色 ③ 小穂 ④2/3 | 外面 橫擦整形。底部及び周辺擦起こし・全面回転 削り・底部溝状の削りによる高台脚部調整。 内面 橫擦整形。 | 8世紀前半 |
| 16 | 5区2層No1 | 須恵器 蓋 | 口径 12.6 底径 5.5 器高 2.4 | ①還元 ②灰褐色 ③黑色粒多・小穂 ④完形 | 外面 橫擦整形。環状摘み脚部付。天井部回転削 り。 内面 橫擦整形。かえり付。 | 8世紀前半 |
| 17 | 6区1層 7区1層 14区1層 | 須恵器 蓋 | 口径 (19.0) 底径 (19.0) 器高 3.0 | ①還元 ②外面灰褐色・内面灰オリーブ 色 ③黑色粒多・小穂 ④3/4 (福 無し) | 外面 橫擦整形。天井部回転削り。自然輪付着。 内面 橫擦整形。かえり付。 | 8世紀前半 |
| 18 | 3区2層 | 土師器 台付腹 | 口径 10.2 脚径 10.0 器高 14.3 | ①普通 ②鶴い褐色 ③黑色粒 (雲 母) ④小穂 ⑤1/2 | 外面 口縁部横擦で、脚部混擦・脚部混削り（斜行）、脚部橫 擦で。 内面 脚部混擦で。 | 8世紀前半 |
| 19 | 6区1層 7区1層 14区1層 | 土師器 腹 | 口径 (19.8) | ①普通 ②明赤褐色 ③黑色粒 (雲 母)・白色粒・小穂 ④口縁部1/6 | 外面 口縁部横擦で、脚部混擦・脚部混削り（斜行）、脚部混 擦で。 | 8世紀前半 |

第2表 遺物観察表(1)

H-3 号住居址

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 法量(cm) | ①焼成 ②色調 ③軸土 ④残存 | 成・整形技法の特徴 | 時期 |
|----|----------------|----------|------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|-----|
| 20 | 張出部 (竈付近) | 土師器 环 | 口径(14.0) 底径(4.1) 高さ(—) | ①焼成 ②褐色 ③黒色粒・白色粒・ 小難 ④1/6 | 外面 口縁部楕円形。底部削り。 内面 横腹で。 | 8世紀 |
| 21 | 11区1層 | 土師器 环 | 口径(13.1) 底径(3.7) 高さ(—) | ①普通 ②明赤褐色 ③黒色粒・白色 粒 ④1/6 | 外面 口縁部楕円形。底部削り。 内面 横腹で。 | 8世紀 |
| 22 | 15区1層 15区2層 | 須恵器 甕 | 口径(—) 底径(—) 高さ(—) | ①還元 ②外面灰褐色・内面灰白色 黒色粒 ③胴部破片 | 外面 脇部平行押き痕。自然輪付着。 内面 向心円状アテ具痕 | 8世紀 |

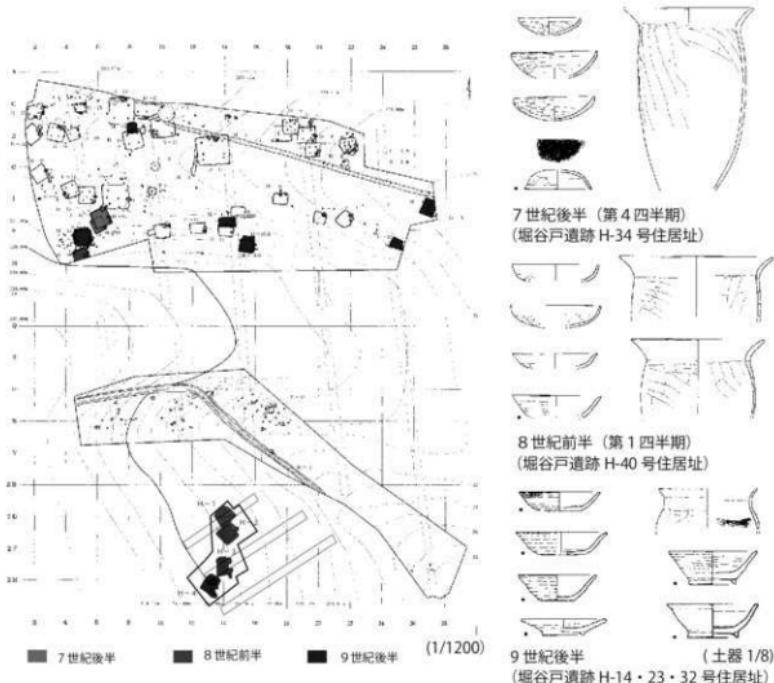
H-4 号住居址

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 法量(cm) | ①焼成 ②色調 ③軸土 ④残存 | 成・整形技法の特徴 | 時期 |
|----|-------|----------|--------------------------------|--|---|-------|
| 23 | 竈内 | 須恵器 环 | 口径(10.9) 底径(7.0) 高さ(3.2) | ①還元 ②外面青灰色・内面明青灰 色 ③黒色粒・白色粒・小難 ④1/3 | 外面 椎體整形。底部右回転糸切り・底部周辺回転 底腹で。 内面 椎體整形。 | 9世紀前半 |
| 24 | 13区1層 | 須恵器 甕 | 口径(—) 底径(—) 高さ(—) | ①還元 ②灰褐色 ③黒色粒・小難 ④ 胴部破片 | 外面 椎體整形。 内面 椎體整形。 | 9世紀前半 |
| 25 | 竈内 | 須恵器 甕 | 口径(—) 底径(—) 高さ(—) | ①還元 ②灰白色・内面 ③黒色粒・石英 ④胴部破片 | 外面 椎體整形。 内面 椎體整形。胴部混濁で・アテ具痕。 | 9世紀前半 |

I-1 号住居址

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 法量(cm) | ①焼成 ②色調 ③軸土 ④残存 | 成・整形技法の特徴 | 時期 |
|----|------|-------------|--------------------------------|-------------------------------------|--|-------|
| 26 | 竈上 | 須恵器 环 | 口径(14.0) 底径(7.0) 高さ(3.4) | ①還元 ②灰褐色 ③黒色粒・白色粒・ 小難 ④口縁部～底部1/3 | 外面 椎體整形。底部右回転糸切り・底部周辺回 転底腹で。 内面 椎體整形。 | 9世紀後半 |
| 27 | 竈上 | 土師器 甕(鉢) | 口径(—) 底径(—) 高さ(—) | ①焼成 ②褐色 ③黒色粒(笠母)・白 色粒・小難 ④C1底部破片 | 外面 口縁部楕円形。口付部に沈線。底部削り (底位)。 内面 口縁部楕円形。 | 9世紀後半 |

第3表 遺物観察表(2)



第12図 堀谷戸遺跡古代住居址分布図

（古墳・平安集落）が存在し、その周辺に岩井西ノ平古墳群等が分布する（岩井地区遺跡群）。西ノ平遺跡の発掘調査では、古墳時代中期（5世紀代）と10世紀後半の住居址が確認された。これにより、岩井地区での集落は、野殿地区より形成開始時期が早く、その存続時期も長期にわたることが明らかとなった。また、10世紀後半の住居址からは、瓦片が少数出土していることから、付近に公的施設あるいは寺院を示唆する瓦片が少数出土している。

今後は、岩野谷地区における開発開始時期の問題、古代碓氷郡における「石井郷」を構成する両地区的遺跡の在り方、古代における遺跡立地と生業活動の特徴といった課題を検討していく必要があろう。

主要参考文献

- 大工原 豊・千田茂雄 1988 「野殿北屋敷・西殿遺跡」 安中市教育委員会
- 坂口 一・三浦京子 1986 「奈良・平安時代の土器編年」『群馬県史研究』第24号 群馬県
- 大工原 豊・井上慎也・外山政子 1999 「堀谷戸遺跡」 安中市教育委員会
- 飯田陽一・外山政子 2001 「堀谷戸遺跡」『安中市史』第4巻 原始古代中世資料編 安中市



堀谷戸 II 遺跡 調査地全景



調査区全景

図版2



H-1号住居址



H-1号住居址 土層堆積状況



H-1号住居址 窯



H-1号住居址 D-1



H-2号住居址



H-2号住居址 土層堆積状況



H-2号住居址 窯



H-2号住居址 蓋出土状況



H-3号住居址



H-3号住居址 土層堆積状況



H-3号住居址 張出部



H-3号住居址 窑1



H-4号住居址



H-4号住居址 土層堆積状況

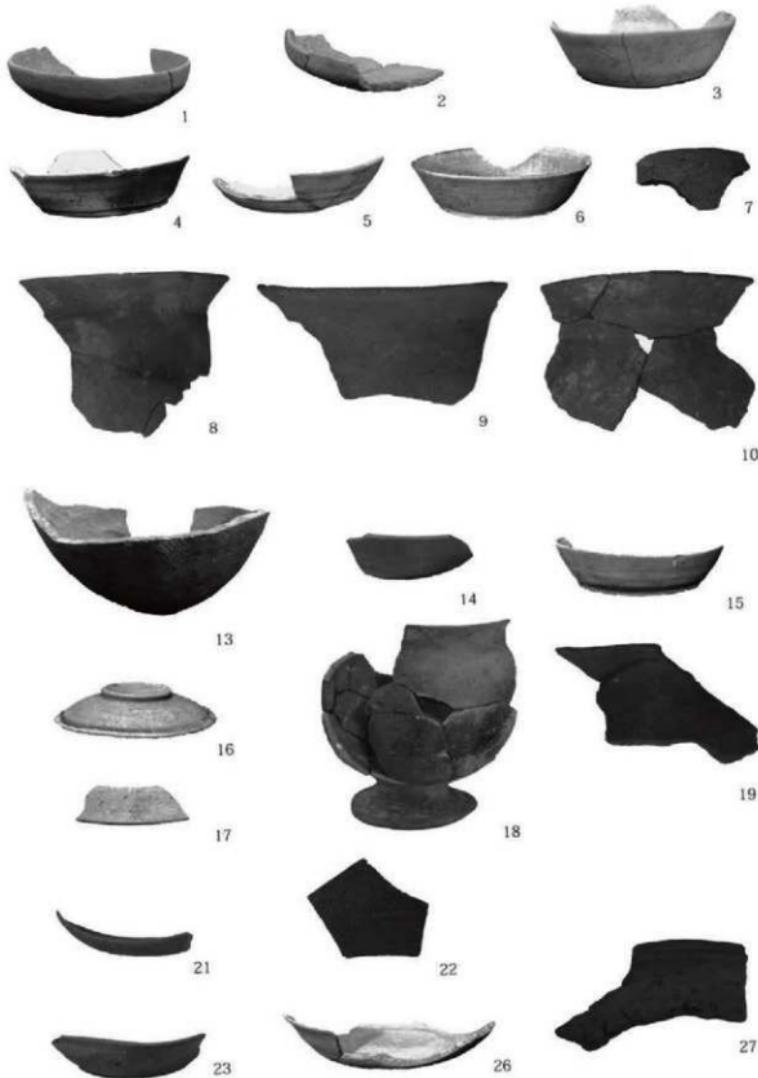


H-4号住居址 窯



I-1号井戸

図版4



発掘調査報告書 抄録

| | |
|---------|---|
| ふりがな | はりがいと に いせき |
| 書名 | 堀谷戸Ⅱ遺跡 |
| 副書名 | 特別養護老人ホーム増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 井上慎也 |
| 編集機関 | 安中市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 編集機関所在地 | 379-0292 群馬県安中市松井田町新堀245 (安中市教育委員会内) TEL 027-382-1111 |
| 発行年 | 西暦2011年(平成23年)12月16日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 °'\"/> | 東經 °'\"/> | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|--------|--------------------|--------|------|--------------|--------------|---------------------------|-------------------|---------------------|
| | | 市町村 | 道路番号 | | | | | |
| 堀谷戸Ⅱ遺跡 | 安中市宇野坂字堀谷戸1599番地1他 | 102113 | H-3 | 36°19'6" | 138°54'53" | 20110905 ～ 20110909 | 200m ² | 特別養護 老人ホーム 増築 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|--------|--|---------|------|-------------|-----------------------------------|
| 堀谷戸Ⅱ遺跡 | 集落 | 奈良・平安時代 | 住居4 | 土師器・須恵器・編物石 | 奈良・平安時代の集落 跡を確認。 張出部をもつ住居址。 |
| 要約 | 平成8年度に調査を実施した堀谷戸遺跡の南側谷を探込んだ台地の調査。今回の発掘調査では、奈良時代を主体とした集落跡が確認された。古代の集落は、8世紀前半と9世紀代を主体とする。集落の場所は、古代碓氷郡の石井郷に推定される。 | | | | |

堀谷戸Ⅱ遺跡

—特別養護老人ホーム増築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 平成23年12月16日

編集・発行 安中市埋蔵文化財発掘調査団
群馬県安中市松井田町新堀245
(安中市教育委員会内)

印 刷 朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67